

日野市核兵器廃絶・平和都市宣言

昭和57年10月8日制定 令和4年10月8日で40年の節目

令和4年度 日野市核兵器廃絶・平和都市宣言イベント

■第一回 8月20日「宣言の成り立ち」 解説:明星大学人文学部(平和学・核被害) 竹峰誠一郎教授

いつ	できごと
昭和54年(1980)	・東西冷戦の中、NATO 諸国に中距離ミサイル配備。 ・ヨーロッパ諸国、米国で反核運動盛り上がる。
昭和55年(1980)	・英国マンチェスター市議会が「非核兵器地帯宣言」。 当市域内で核製造、核配備しないことを英国政府に求める、という内容。 ・英国内のすべての自治体へ同様の議決をするよう求め、英国、ヨーロッパ、北米、豪州、日本へ波及 ⇒戦争するのは国家。犠牲になるのは市民。我々は加害者にも被害者にもなりたくない。市民の安全を守る立場から、都市が声をあげるようになった。 ⇒市民レベルで核の影響を学ぶ、知る、議論する機会となった。
昭和57年(1982) 6月～7月	・ニューヨーク国連本部で第2回国連軍縮会議。初めて被爆者が演説。 広島市長が都市の連帯を呼び掛け(⇒平和首長会議発足)。 ・期間中、世界中から 100 万人が反核を求めてデモ行進。
昭和57年(1982) 6月～10月	・6月 日野市議会に非核都市宣言に関する請願採択 ・8月 広島県府中町で9自治体非核宣言シンポジウム開催。日野市長出席 ・9月 日野市議会で「日野市核兵器廃絶・平和都市宣言」議案可決 ・10月 施行
昭和60年(1985)	・「核の冬」出版 核戦争が起きると大規模な環境変動が起きて人為的に氷期が発生する。 文明と人類は滅亡する。 ・↑核の冬が出版される前に日野市は宣言制定。

日野市核兵器廃絶平和都市宣言は、3つの大切なことを教えてくれる。

- 1 地球規模で物事を考える大切さ
- 2 足元を見つめる大切さ
- 3 自ら行動する大切さ

当時の人々の目線に感動する。

地球規模の視点

核の冬の考え方を先取り

地球の未来を、米ソに任せてられない。日野市として、市民として行動することを宣言。